



## 2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月2日

上場会社名 株式会社IMAGICA GROUP

上場取引所 東

コード番号 6879 URL <https://www.imagicagroup.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 社長執行役員 (氏名) 布施 信夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 専務執行役員 (氏名) 森田 正和

TEL 03-5777-6295

四半期報告書提出予定日 2022年8月2日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	19,861	28.9	271		306		53	89.3
2022年3月期第1四半期	15,414	8.6	255		285		499	

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 740百万円 ( 43.3%) 2022年3月期第1四半期 1,306百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	1.20	
2022年3月期第1四半期	11.25	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	77,832	34,160	40.1
2022年3月期	73,384	34,025	42.4

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 31,190百万円 2022年3月期 31,149百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		15.00	15.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		0.00		15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	88,000	9.7	3,600	5.3	3,300	16.1	2,100	23.0	47.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 有

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期1Q	44,741,467 株	2022年3月期	44,741,467 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2023年3月期1Q	345,938 株	2022年3月期	345,938 株
------------	-----------	----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2023年3月期1Q	44,395,529 株	2022年3月期1Q	44,386,657 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1)経営成績に関する説明	2
(2)財政状態に関する説明	3
(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1)四半期連結貸借対照表	4
(2)四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### ①当第1四半期連結累計期間の概況

当社グループの主な事業領域である映像関連事業においては、急速な技術革新に加え、新型コロナウイルス感染症による社会環境の変化によってオンラインライブやメタバースを活用した新しいエンタテインメントが出現、また動画配信事業者の競争が激化するなど、市場環境が目まぐるしい変化を遂げております。

当社グループはこのような環境を成長機会と捉え、中期経営計画「G-EST2025」をスタートいたしました。2年目となる2023年3月期においては「高収益体質のグループへ転換するための基盤づくりを継続」を方針とし、引き続き4つの基本戦略を軸に様々な取り組みを推進しております。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高は198億61百万円(前年同四半期比28.9%増)、営業利益は2億71百万円(前年同四半期は営業損失2億55百万円)、経常利益は3億6百万円(前年同四半期は経常損失2億85百万円)となりました。一方で親会社株主に帰属する四半期純利益については、特別損失2億19百万円の計上、および繰延税金資産に起因する法人税等の増加により53百万円(前年同四半期比89.3%減)となりました。

#### ②セグメント別の業績

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、従来「調整額」に含めておりました連結子会社1社(株式会社IMAGICA EEX)について、重要性が増したため、「映像コンテンツ事業」に区分変更いたしました。当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

#### 1)映像コンテンツ事業

当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は41億49百万円(前年同四半期比5.0%増)、営業損失は1億93百万円(前年同四半期は営業損失28百万円)となりました。

劇場映画・ドラマ作品は、作品の納品が増加し好調に推移しました。CM制作についても堅調な受注が継続しております。一方アニメーション作品では、一部作品の納品が第2四半期以降へ延期になったこと等により減収減益となりました。出版事業では、前年同四半期は人気ライトノベルの新作発売により好調な業績となりましたが、当第1四半期はその反動により減収減益となりました。

今期より映像コンテンツ事業に区分されております株式会社IMAGICA EEXは、中期経営計画で掲げる基本戦略の1つ「ライブエンタテインメント事業」を手掛けており、びあ株式会社が提供するバーチャルライブプラットフォーム「NeoMe(ネオミー)」の開発協力や映像演出などの受注が好調に推移しました。

これらの結果、映像コンテンツ事業全体は増収減益となりました。

#### 2)映像制作サービス事業

当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は119億55百万円(前年同四半期比37.6%増)、営業利益は3億55百万円(前年同四半期は営業損失1億74百万円)となりました。

国内のE2Eサービス<sup>※1</sup>においては、劇場映画・ドラマシリーズの大型案件や劇場アニメーション作品のポストプロダクションが堅調に推移したことに加え、デジタルシネマ向けのサービスの受注も増加しました。また、Pixelogic Holdings LLCとの連携にて、動画配信事業者との受注を継続して確保することにより、動画ファイルの圧縮・変換等のエンコード、ローカライズ等において売上は堅調に推移しました。

海外のE2Eサービスにおいては、引き続き動画配信事業者向けのローカライズの需要が堅調に推移し、売上が伸長しました。

TV番組・TVCM向けのポストプロダクションサービス等においては、受注を安定して確保したことにより売上は堅調に推移しております。

ゲーム制作・人材サービス等においては、ゲームの3DCG制作およびデバッグ等の受注が好調に推移しました。

これらの結果、映像制作サービス事業全体は増収増益となりました。

※1：E2Eサービス：End to End。映画・ドラマ・アニメーション等の映像コンテンツを制作するポストプロダクションから、それらを劇場、テレビ、インターネットを介した動画配信などあらゆるメディアで流通させるため

に必要なローカライズ(吹替、字幕制作)、ディストリビューション(流通)のためのメディアサービスまでをワンストップで提供するサービスの総称。

※海外のE2Eサービスの業績につきましては、決算日が12月31日であるため、当第1四半期連結累計期間には2022年1月1日～2022年3月31日の実績を反映しております。

### 3)映像システム事業

当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は42億25百万円(前年同四半期比34.1%増)、営業利益は3億25百万円(前年同四半期比214.6%増)となりました。

ハイスピードカメラは、国内・海外において受注は堅調に推移しましたが、半導体不足の影響により一部納品に遅れが出てきております。一方、放送映像システムは大型案件などの受注が貢献し増収増益となりました。CMオンライン送稿の販売は堅調を維持し、映像・画像処理LSIについては国内および海外(特にアジア地域)における販売が引き続き好調に推移しました。

これらの結果、映像システム事業全体は増収増益となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて59百万円(0.1%)減少し、410億7百万円となりました。

これは主に、棚卸資産が増加した一方で、受取手形、売掛金及び契約資産、並びに現金及び預金が減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて45億7百万円(13.9%)増加し、368億24百万円となりました。

これは主に、リース資産が増加したことによるものであります。

これらの結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて44億47百万円(6.1%)増加し、778億32百万円となりました。

### ②負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて10億85百万円(3.4%)増加し、333億64百万円となりました。

これは主に、支払手形及び買掛金が減少した一方で、契約負債が増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて32億27百万円(45.6%)増加し、103億7百万円となりました。

これは主に、その他の固定負債が増加したことによるものであります。

これらの結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて43億12百万円(11.0%)増加し、436億71百万円となりました。

### ③純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べて1億35百万円(0.4%)増加し、341億60百万円となりました。

これは主に、利益剰余金が減少した一方で、為替換算調整勘定が増加したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期通期の業績予想につきましては、2022年5月13日に公表した数値から変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,420,308	5,487,142
受取手形、売掛金及び契約資産	18,849,395	15,331,717
棚卸資産	13,613,658	17,168,428
その他	2,223,017	3,059,997
貸倒引当金	△39,570	△40,032
流動資産合計	41,066,808	41,007,253
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	15,952,389	15,975,871
減価償却累計額	△10,045,227	△10,168,795
減損損失累計額	△458,793	△410,267
建物及び構築物(純額)	5,448,367	5,396,808
機械装置及び運搬具	8,834,537	6,927,348
減価償却累計額	△7,837,771	△5,983,965
減損損失累計額	△164,156	△135,207
機械装置及び運搬具(純額)	832,609	808,174
土地	1,705,807	1,705,807
リース資産	1,301,876	5,191,816
減価償却累計額	△863,337	△879,639
減損損失累計額	△134,863	△128,673
リース資産(純額)	303,675	4,183,503
その他	6,969,868	7,255,522
減価償却累計額	△4,961,618	△5,105,083
減損損失累計額	△129,285	△127,924
その他(純額)	1,878,964	2,022,514
有形固定資産合計	10,169,425	14,116,808
無形固定資産		
のれん	11,482,801	11,844,408
その他	2,352,770	2,422,193
無形固定資産合計	13,835,572	14,266,601
投資その他の資産		
投資有価証券	2,670,687	2,711,259
関係会社株式	385,838	512,779
敷金及び保証金	2,066,324	2,027,601
繰延税金資産	3,051,529	3,074,182
その他	286,596	271,440
貸倒引当金	△148,462	△155,724
投資その他の資産合計	8,312,513	8,441,540
固定資産合計	32,317,511	36,824,950
資産合計	73,384,320	77,832,204

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,884,981	7,013,739
短期借入金	4,170,485	4,308,115
未払金	1,824,055	1,449,988
未払法人税等	850,863	135,797
契約負債	8,373,707	11,884,153
賞与引当金	1,594,260	699,423
受注損失引当金	3,717	6,168
訴訟損失引当金	584,309	647,606
資産除去債務	41,401	—
その他	5,951,109	7,219,301
流動負債合計	32,278,892	33,364,294
固定負債		
長期借入金	4,019,743	3,806,097
長期末払金	208,183	205,948
繰延税金負債	396,815	411,417
退職給付に係る負債	1,311,241	1,277,036
資産除去債務	636,938	639,839
その他	507,067	3,966,718
固定負債合計	7,079,990	10,307,058
負債合計	39,358,882	43,671,352
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,306,002	3,306,002
資本剰余金	13,223,561	13,223,561
利益剰余金	13,785,809	13,171,481
自己株式	△351,569	△351,569
株主資本合計	29,963,804	29,349,475
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	610,074	612,974
土地再評価差額金	△17,933	△17,933
為替換算調整勘定	595,800	1,248,601
退職給付に係る調整累計額	△2,483	△2,861
その他の包括利益累計額合計	1,185,458	1,840,781
非支配株主持分	2,876,174	2,970,595
純資産合計	34,025,437	34,160,852
負債純資産合計	73,384,320	77,832,204

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	15,414,113	19,861,611
売上原価	11,028,031	14,366,860
売上総利益	4,386,082	5,494,751
販売費及び一般管理費	4,642,006	5,223,393
営業利益又は営業損失(△)	△255,924	271,357
営業外収益		
受取利息	260	278
受取配当金	13,229	16,006
為替差益	—	85,038
その他	32,366	55,352
営業外収益合計	45,856	156,675
営業外費用		
支払利息	52,165	50,203
持分法による投資損失	208	4,649
為替差損	2,767	—
その他	19,976	66,872
営業外費用合計	75,117	121,725
経常利益又は経常損失(△)	△285,186	306,307
特別利益		
固定資産売却益	794	2,923
関係会社株式売却益	357,963	—
移転補償金	—	138,685
特別利益合計	358,757	141,609
特別損失		
固定資産除却損	4,039	1,640
割増退職金	—	170,228
その他	68	47,685
特別損失合計	4,107	219,554
税金等調整前四半期純利益	69,464	228,362
法人税等	△395,136	145,385
四半期純利益	464,601	82,976
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△34,651	29,746
親会社株主に帰属する四半期純利益	499,252	53,230

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
四半期純利益	464,601	82,976
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	75,973	2,900
為替換算調整勘定	765,850	654,645
退職給付に係る調整額	△167	△377
その他の包括利益合計	841,656	657,167
四半期包括利益	1,306,257	740,144
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,342,023	677,733
非支配株主に係る四半期包括利益	△35,766	31,591

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合は、税引前四半期純損益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(1) 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書(ASC)第842号「リース」の適用

米国会計基準を適用している在外連結子会社において、ASC第842号「リース」を当第1四半期連結会計期間の期首より適用しております。

これに伴い、借手のリース取引については、原則としてすべてのリースについて資産及び負債として計上しております。本基準の適用にあたっては、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首において、有形固定資産の「リース資産(純額)」が3,002,985千円、流動負債の「その他」が384,364千円、固定負債の「その他」が2,735,036千円増加しております。なお、当第1四半期連結会計期間の利益剰余金の期首残高に与える影響及び当第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書に与える影響は軽微であります。

(2) 税金費用の計算方法の変更

従来、税金費用については、一部の連結子会社を除いて、原則的な方法により計算しておりましたが、当社及び連結子会社の四半期決算業務の一層の効率化を図るため、当第1四半期連結会計期間より連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	映像 コンテンツ	映像制作 サービス	映像 システム	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	3,921,417	8,443,751	3,044,891	15,410,060	4,052	15,414,113
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	30,217	244,006	106,164	380,388	△380,388	—
計	3,951,634	8,687,758	3,151,056	15,790,449	△376,335	15,414,113
セグメント利益又は 損失(△)	△28,682	△174,833	103,511	△100,004	△155,920	△255,924

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△155,920千円は、当社に係る損益978,807千円及びセグメント間取引消去△1,134,727千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	映像 コンテンツ	映像制作 サービス	映像 システム	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	4,145,021	11,648,297	4,060,900	19,854,219	7,391	19,861,611
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	4,672	307,413	164,138	476,224	△476,224	—
計	4,149,693	11,955,710	4,225,039	20,330,443	△468,832	19,861,611
セグメント利益又は 損失(△)	△193,668	355,187	325,674	487,192	△215,835	271,357

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△215,835千円は、当社に係る損益1,502,576千円及びセグメント間取引消去△1,718,411千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、従来「調整額」に含めておりました連結子会社1社(株式会社IMAGICA EEX)について、重要性が増したため、「映像コンテンツ事業」に区分しております。

なお、前第1四半期連結累計期間の「報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」は、変更後の区分に基づき作成したものを開示しております。